

# 大阪経済の情勢

(平成26年3月指標を中心に)

平成 26 年 5 月  
大阪府商工労働部  
(大阪産業経済リサーチセンター)

## 「大阪経済は、緩やかに回復している」

**需要面**では、個人消費は緩やかに回復しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要もみられている。大型小売店販売額、コンビニ販売額、家電販売額、新車販売台数はすべて増加した。家計消費支出(近畿)は増加。投資は増加の動きに一服感がみられる。住宅投資は増加、非居住用建設投資は減少した。公共投資は増加。輸出は横ばいとなっている。輸出額は13ヶ月連続で増加したが、伸び率は鈍化。主要国向けではアジア(含む中国)、EUで増加。輸入額は15ヶ月連続の増加。取扱貨物量は、関空、大阪港ともに増加。

**供給面**では、生産動向は持ち直している。大阪府(2月)は、生産、出荷ともに上昇。近畿の生産(2月)は低下、全国の生産(3月)は上昇。在庫循環は意図せざる在庫減局面。雇用は着実に改善している。所定外労働時間は増加し、近畿の失業率は改善。有効求人倍率、新規求人倍率ともに上昇。倒産は、件数、負債金額ともに改善。

先行きについては、景気動向指数(先行)は低下。今後は、消費税率引き上げ後の反動減、海外経済の動向等に引き続き注意が必要。

		需要							
	総合	消費				投資		貿易・貨物	
	一致CI(大阪)	大型小売店販売(大阪)	コンビニ販売(近畿)	家電販売(近畿)	新車販売(大阪)	新設住宅着工(大阪)	建築物着工(大阪)	輸出(近畿)	関空取扱貨物量
3月		↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↑
2月	↓	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↑

		供給			その他	
	生産	雇用		倒産	観光	
	生産指数(大阪)	生産指数(全国)	有効求人倍率(大阪)	失業率*(近畿)	倒産件数*(大阪)	関空外国人旅客
3月	↑	↑	↑	↑	↑	↑
2月	↑	↓	↑	↑	↑	↑

※前年同月と比較し、上向きの矢印は「景況改善」、下向きの矢印は「景況悪化」。ただし、一致CI、生産指数、有効求人倍率は季節調整済みのため、前月との比較。失業率と倒産件数は、減少・低下が景況改善となり、上向きの矢印となる。

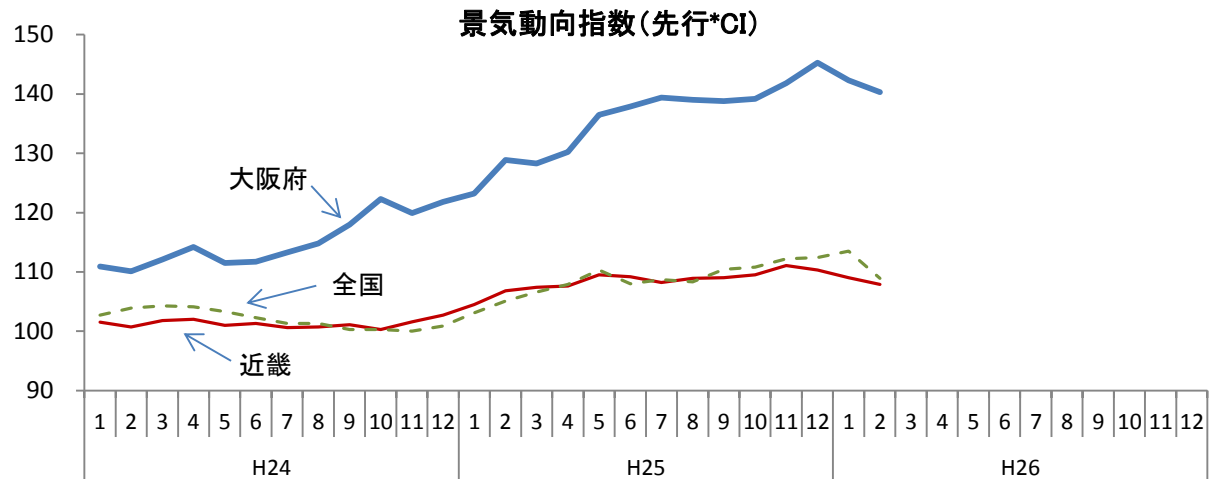
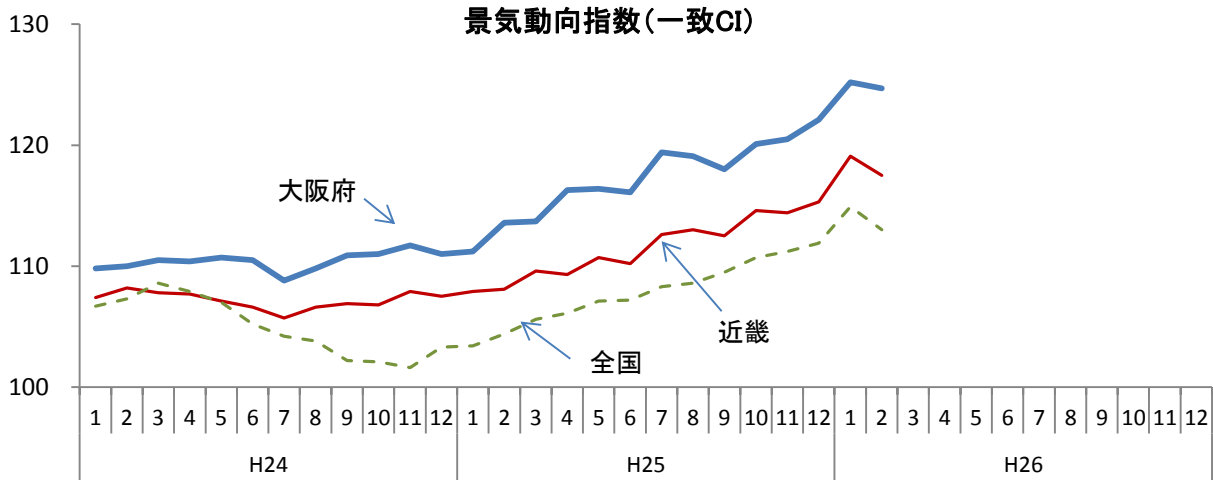
(参考)他機関の総括判断

	前回(26年3月公表分) (25年1月指標中心)	今回(26年4月公表分) (26年2月指標中心)
<a href="#">内閣府</a> <a href="#">「月例経済報告」</a>	景気は、緩やかに回復している。また、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要が強まっている。	景気は、緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。
<a href="#">近畿経済産業局</a> <a href="#">「近畿経済の動向」</a>	近畿地域の経済は、着実に持ち直している。	近畿地域の経済は、着実に持ち直している。
<a href="#">日本銀行大阪支店</a> <a href="#">「近畿地域金融経済概況」</a>	近畿地域の景気は、緩やかに回復しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要と一部に反動もみられている。	近畿地域の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している。

※以下、Pは速報値を表す

[総合]

○景気動向指数(CI)【大阪府(2月)は一致CI、先行CIはともに低下。大阪府(一致CI)では、主に「輸入通関額」、「大口電力使用量」が低下に寄与。近畿(2月)は一致CI、先行CIはともに低下。全国(2月)の一致は低下。】



(資料)大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

※ H22=100。

先行 CI は、3ヶ月から半年程度、景気に先行する指標で構成されている。

一致 CI

	26年1月	2月	3月
大阪府	125.2	P 124.7	
近畿	119.1	P 117.5	
全国	114.9	113.0	

先行 CI

	26年1月	2月	3月
大阪府	142.3	P 140.3	
近畿	109.0	P 107.9	
全国	113.5	108.9	

一致CIの個別系列の寄与度\*(大阪府、2月速報)

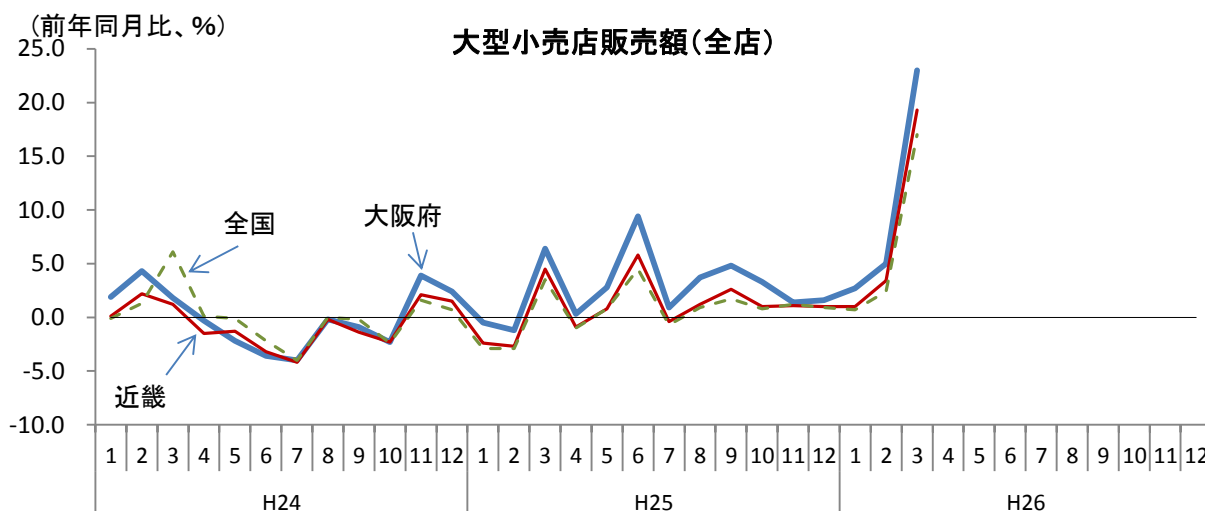
百貨店売場面 積当たり販売額	大阪税関管内 輸入通関額	製造工業 生産指数	生産財 出荷指数	関西大口電力 使用量(合計)	有効求人倍率	所定外労働時間 指数(製造業)
▲0.13	▲0.86	0.65	0.51	▲0.71	0.05	▲0.01

※寄与度とは、CIの前月からの変化が、CIを合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

## [需要] 消費

個人消費は緩やかに回復しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要もみられている。大型小売店販売額、コンビニ販売額、家電販売額、新車販売台数はすべて増加した。家計消費支出(近畿)は増加。

### ○大型小売店販売額(全店)【13ヶ月連続の増加。消費税率引き上げ前の駆け込み需要により、大幅増。百貨店販売額は17ヶ月連続の増加。】



(資料)近畿経済産業局「大型小売店販売状況」、経済産業省「商業販売統計」

#### 大型小売店販売額(全店)

		26年1月	2月	3月
販売額(億円)	大阪府	1,509	1,311	P 1,783
	近畿	1,153	1,090	P 1,273
前年比(%)	大阪府	2.7	5.0	P 23.0
	近畿	1.0	3.4	P 19.3
	全国	0.7	2.4	P 17.0

#### 大阪府内大型小売店へのヒアリングより(3月)

前半は天候不順なども影響して、紳士ブルゾン、ジャケット、スプリングコート、婦人スーツといった春物商品の動きが低調だったが、天候に左右されにくいスーツケースやビジネスシューズなどが月間を通じて堅調だった。後半は消費税率引き上げ前の駆け込み需要の動きが顕著となった。

衣料品では、パンストや半袖シャツなどの肌着、紳士・婦人高級既製服、紳士スーツ・洋品雑貨などが大きく伸長し、時計・宝飾ではより高単価な商品が好調に推移した。

また、化粧品、水・ビール等の飲料、缶詰といった商品では、まとめ買いをする動きが活発となり、食料品全体でも月末の数日間に需要が集中した。

#### 百貨店(大阪府)

		26年1月	2月	3月
販売額(億円)		800	665	P 990
前年比(%)		4.6	6.5	P 31.8

#### スーパー(大阪府)

		26年1月	2月	3月
販売額(億円)		708	646	P 793
前年比(%)		0.7	3.5	P 13.5

### ○コンビニエンスストア販売額(全店)【近畿は13ヶ月連続の増加。】

		26年1月	2月	3月
販売額(億円)	近畿	1,153	1,090	P 1,273
前年比(%)	近畿	6.2	7.6	P 8.8
	全国	5.4	6.2	P 7.6

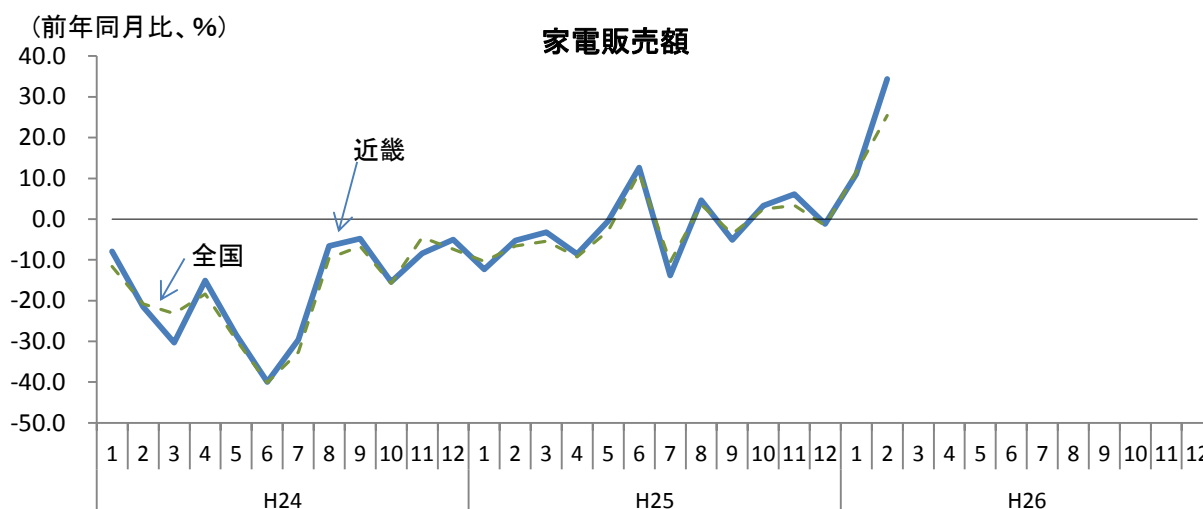
### ○家計消費支出【近畿は8ヶ月連続の増加。】

		26年1月	2月	3月
円	近畿	312,037	304,234	353,592
前年比(%)	近畿	2.8	6.2	4.5
	全国	1.5	▲1.4	9.6

(資料)総務省統計局「家計調査」 ※二人以上の世帯うち勤労者世帯、一世帯当たりの名目。

## [需要] 消費

### ○家電販売額【近畿(2月)は2ヶ月連続の増加。】



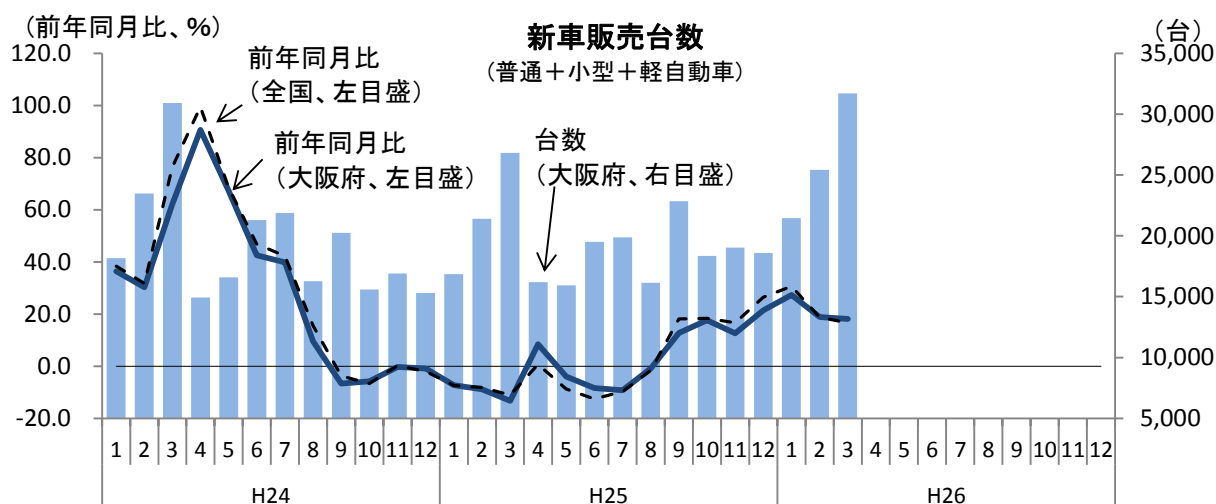
(資料) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

#### 商品別の主な増減(近畿、2月)

		26年1月	2月	3月
前年比 (%)	近畿	11.0	34.4	
	全国	11.5	25.4	

「空気清浄機等」(前年同月比 32.5%減)が前年を下回ったものの、「エアコン」(同 85.1%増)、「冷蔵庫」(同 87.3%増)などが前年を上回った。

### ○新車販売台数【7ヶ月連続の増加。】



(資料) (一社) 日本自動車販売協会連合会、(一社) 全国軽自動車協会連合会

		26年1月	2月	3月
販売額(台)	大阪府	21,461	25,426	31,700
前年比 (%)	大阪府	27.3	18.9	18.2
	全国	30.6	18.8	16.7

#### 車種別の増減

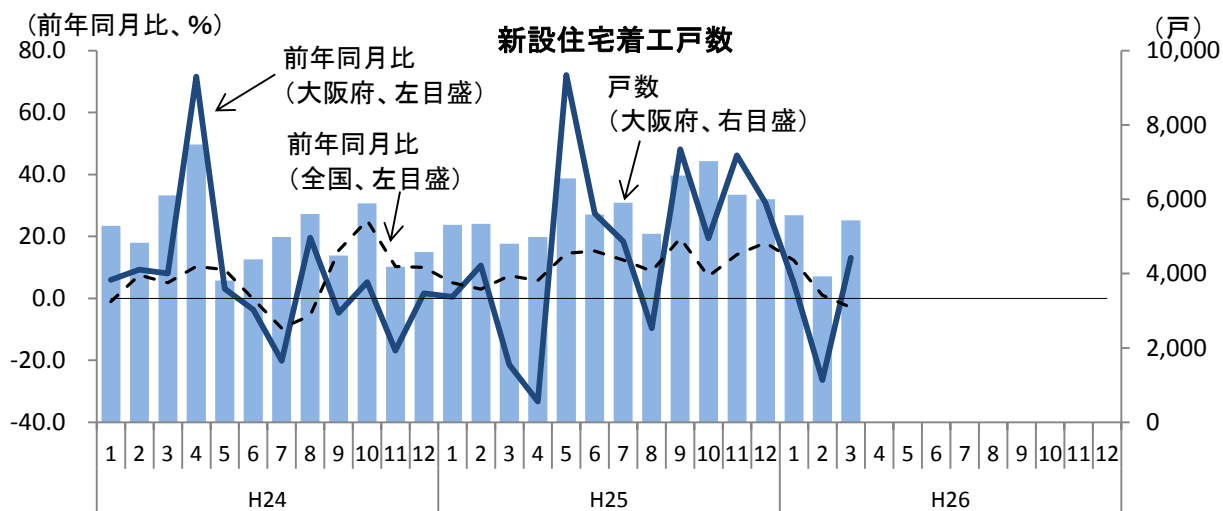
(大阪府、前年同月比(%), 3月)

普通車	小型車	軽自動車
21.0	7.8	27.6

## [需要] 投資

投資は、増加の動きに一服感がみられる。住宅投資は増加、非居住用建設投資は減少した。公共投資は増加。

### ○新設住宅着工戸数【2ヶ月ぶりの増加。】



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

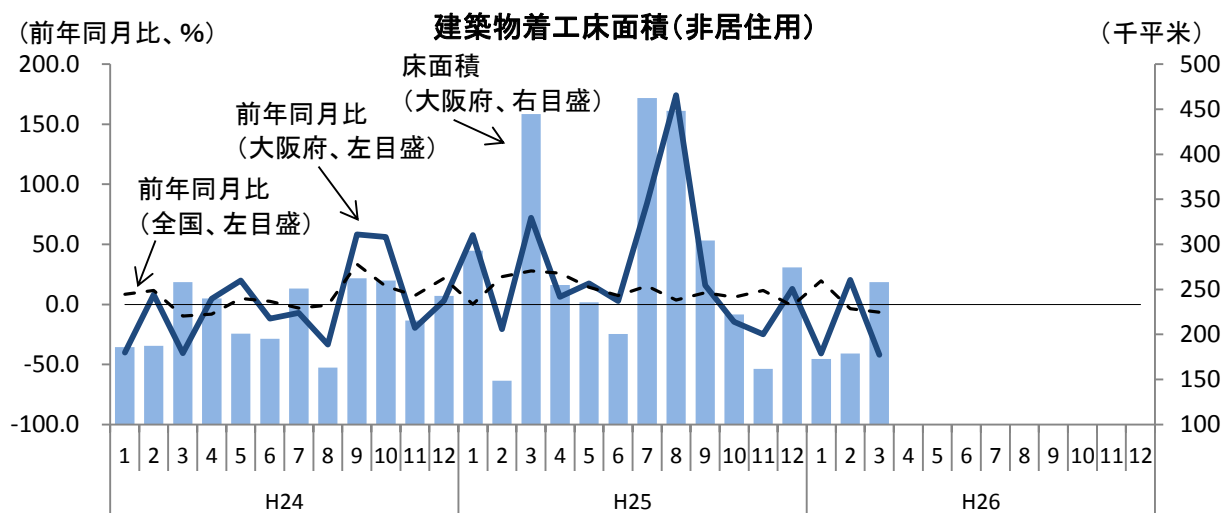
		26年1月	2月	3月
戸数	大阪府	5,567	3,925	5,429
前年比 (%)	大阪府	4.8	▲26.4	13.1
	全国	12.3	1.0	▲2.9

利用者関係別の増減

(大阪府、前年同月比(%)、3月)

持家	貸家	分譲
▲16.2	20.1	21.1

### ○建築物着工床面積(非居住用)【2ヶ月ぶりの減少。】



(資料)国土交通省「建築着工統計」

		26年1月	2月	3月
千m <sup>2</sup>	大阪府	173	179	258
前年比 (%)	大阪府	▲41.0	20.3	▲42.0
	全国	19.7	▲3.6	▲6.4

着工床面積の主な増減

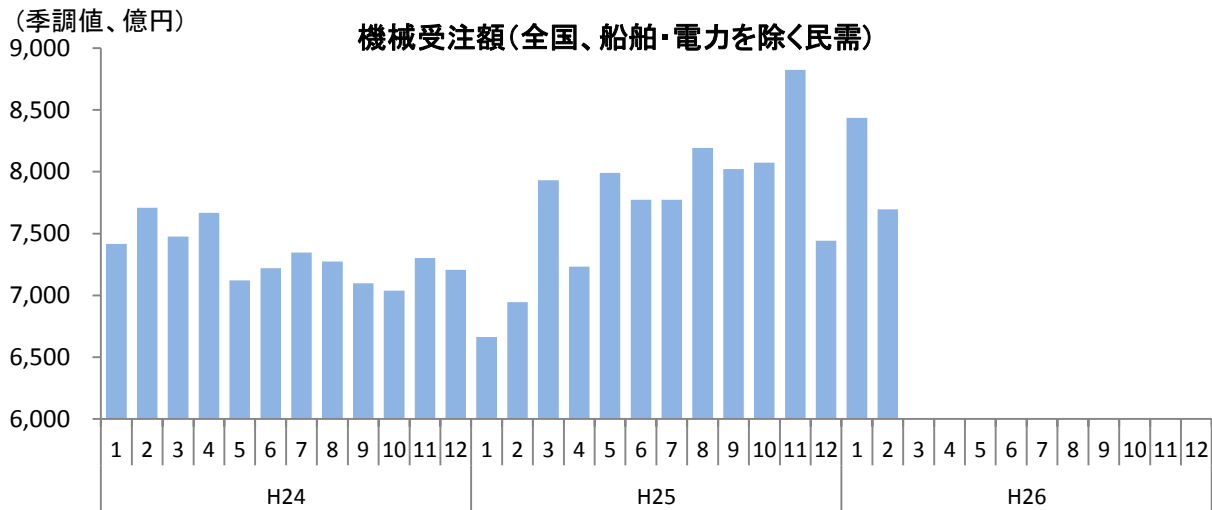
(大阪府、前年同月比の寄与度※(%)、3月)

増加	教育、学習支援業(8.1)
減少	卸売業、小売業(▲25.3)
	運輸業(▲17.6)

※寄与度とは、全体の増減率の要因として、各業種の増減がどの程度貢献しているのかを表す数値。

## [需要] 投資

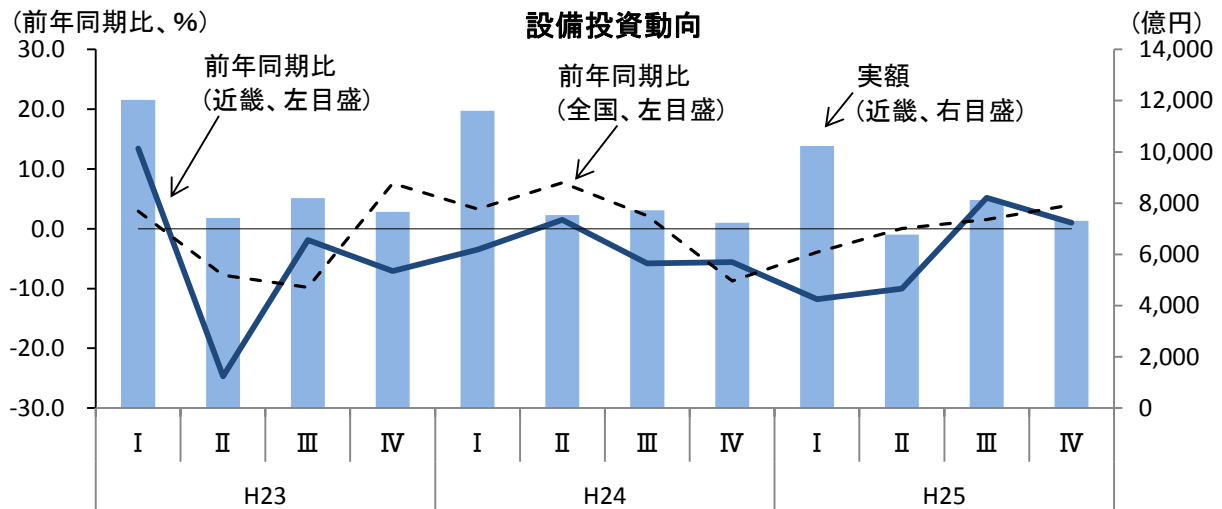
### ○機械受注額【2月(全国)は減少。】



(資料)内閣府「機械受注統計調査」

	26年1月	2月	3月
全国(億円)	8,435	7,696	

### ○設備投資動向【10~12月期(近畿)は増加。「製造業」は減少、「非製造業」は増加。】



(資料)近畿財務局「法人企業統計」、財務省「法人企業統計」

※資本金10億円以上、全産業(金融・保険業を除く)。ソフトウェアを含む設備投資。

		25年4~6月	7~9月	10~12月
億円	近畿	6,778	8,123	7,308
前年同期比 (%)	近畿	▲10.0	5.2	1.0
	全国	0.0	1.5	4.0

### ○公共工事請負金額【2ヶ月ぶりの増加。】

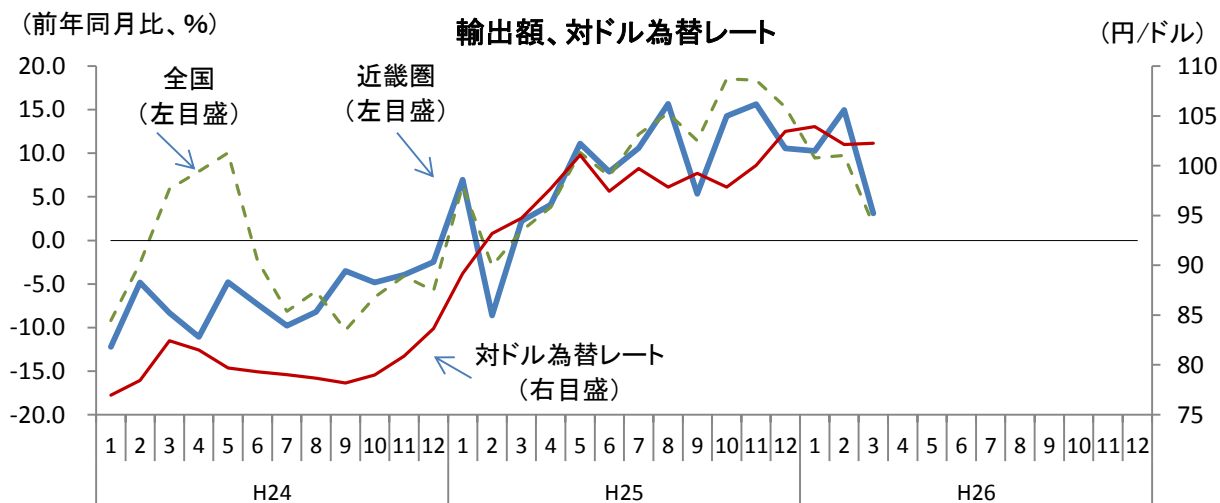
		26年1月	2月	3月
億円	大阪府	229	222	339
前年比 (%)	大阪府	56.5	▲27.9	18.3
	全国	28.8	3.7	18.1

(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事前払保証統計」

## [需要] 貿易・貨物

輸出は横ばいとなっている。輸出額は13ヶ月連続で増加したが、伸び率は鈍化。主要国向けではアジア(含む中国)、EUで増加。輸入額は15ヶ月連続の増加。取扱貨物量は、関空、大阪港ともに増加。

○輸出額【13ヶ月連続の増加。「鉱物性燃料」、「鉄鋼」などが増加。主要国・地域向けでは、アジア(含む中国)、EUで増加。】

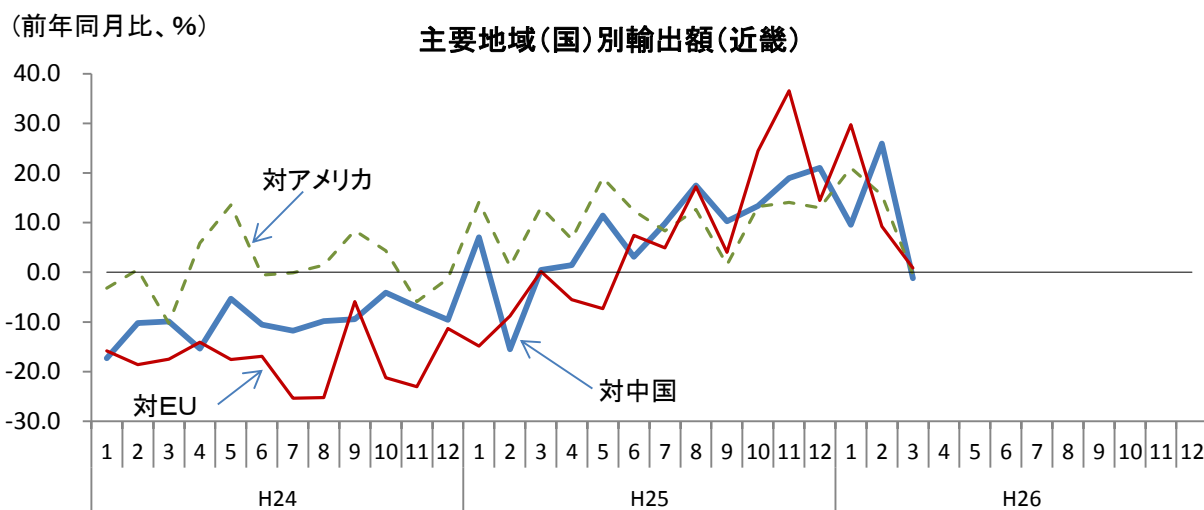


(資料)大阪税関「貿易統計」、日本銀行「時系列統計」

※対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

		26年1月	2月	3月
輸出額(億円)	近畿	10,877	12,125	P 13,519
前年比 (%)	近畿	10.3	15.0	P 3.1
	全国	9.5	9.8	P 1.8
為替レート(円/ドル)		103.94	102.13	102.27

品目別の主な増減 (近畿、前年同月からの増減額順、3月)	
増加	鉱物性燃料、鉄鋼、重電機器
減少	建設用・鉱山用機械、原動機、ガラス及び同製品



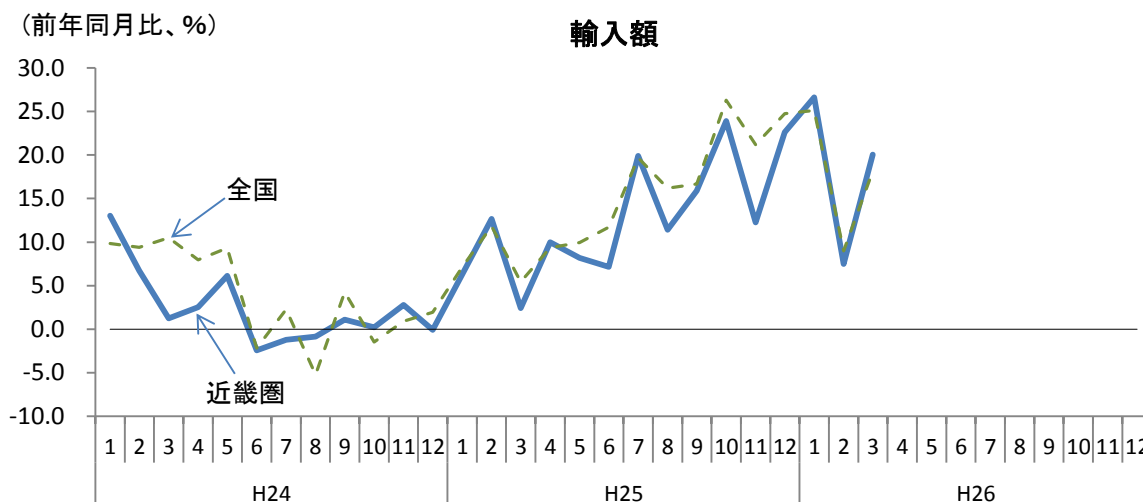
(資料)大阪税関「貿易統計」

主要地域別輸出額の増減(近畿、前年同月比(%))、3月)

アジア(含む中国)	3.6	13ヶ月連続の増加
中国	▲1.2	13ヶ月ぶりの減少
EU	0.8	10ヶ月連続の増加
アメリカ	▲0.4	15ヶ月ぶりの減少

## 【需要】 貿易・貨物

○輸入額【15ヶ月連続の増加。「天然ガス及び製造ガス」、「通信機」などが増加。】



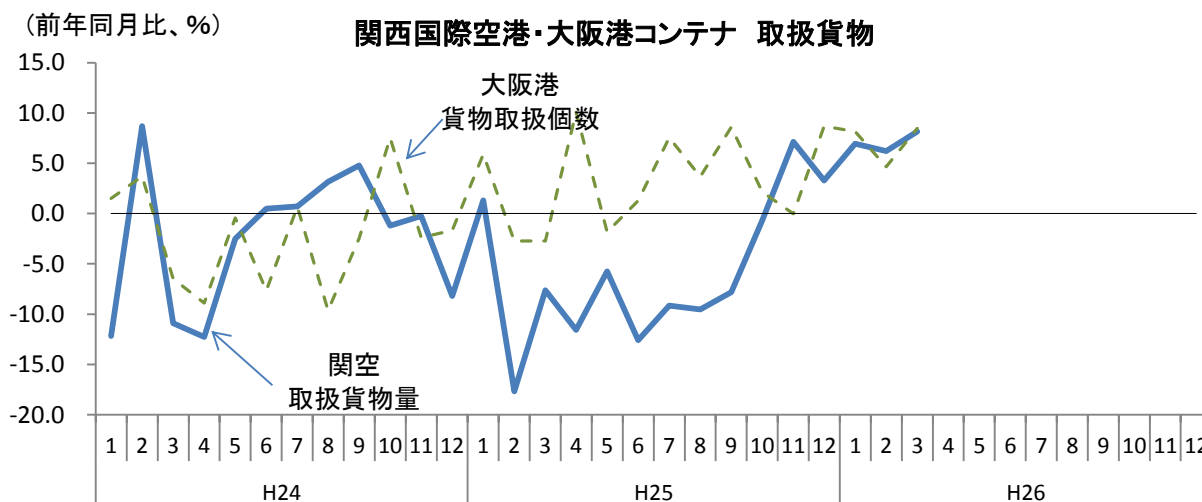
(資料)大阪税関「貿易統計」

		26年1月	2月	3月	品目別の主な増減 (近畿、前年同月から増減額順、3月)	
輸入額(億円)	近畿	15,496	P 11,597	P 14,625	増加	天然ガス及び製造ガス、通信機、 原油及び粗油
前年比 (%)	近畿	26.6	P 7.5	P 20.0	減少	たばこ、穀物及び同調製品、事務用機器
	全国	25.1	P 9.0	P 18.1		

主要地域別輸入額の増減(近畿、前年同月比(%))、3月)

アジア(含む中国)	21.0	15ヶ月連続の増加
中国	22.0	2ヶ月ぶりの増加
EU	19.8	4ヶ月連続の増加
アメリカ	34.0	7ヶ月連続の増加

○関空取扱貨物量【5ヶ月連続の増加】、大阪港コンテナ貨物取扱個数【4ヶ月連続の増加。】



(資料)新関西国際空港(株)「運営概況」、大阪市「港湾統計」

※関西国際空港貨物取扱量はトン、大阪港コンテナ貨物取扱個数はTEUで、外貨の実入+空の合計。

※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示す。

関空取扱貨物量		大阪港コンテナ貨物取扱個数		
	26年1月	2月	3月	
千トン	52.1	P 48.7	P 63.9	千TEU
前年比(%)	6.9	P 6.2	P 8.1	26年1月
				P 193
				2月
				PP 143
				3月
				PP 187
				前年比(%)
				P 8.2
				PP 4.6
				PP 8.5

※PPは速報値

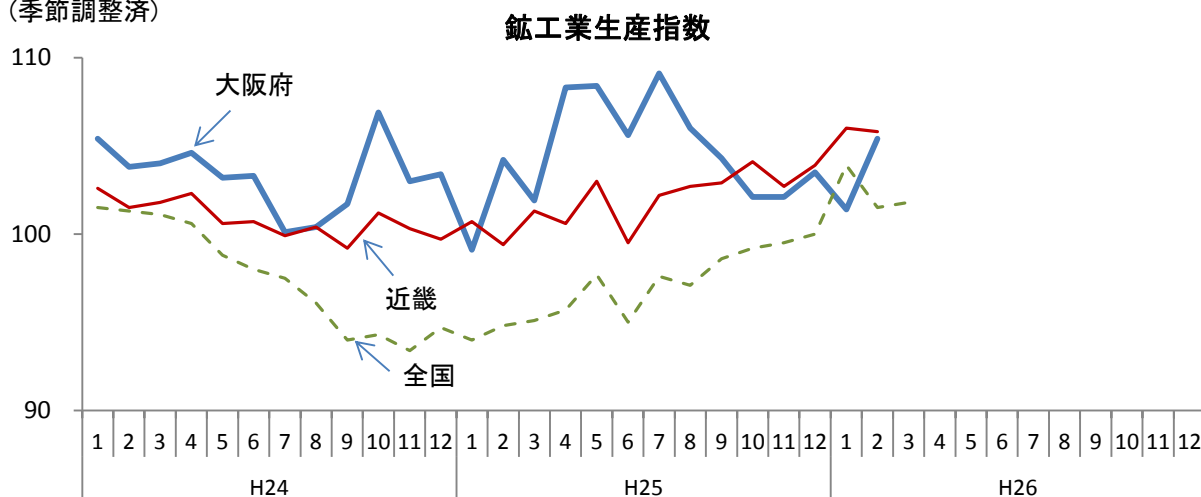


## [供給] 生産

生産動向は持ち直している。大阪府(2月)は、生産、出荷ともに上昇。近畿の生産(2月)は低下、全国の生産(3月)は上昇。在庫循環は意図せざる在庫減局面。

○鉱工業生産指数【大阪府(2月)は2ヶ月ぶりの上昇。「電子部品・デバイス」、「化学」などが上昇。近畿(2月、鉱工業)は3ヶ月ぶりの低下。全国(3月、鉱工業)は2ヶ月ぶりの上昇。】

(季節調整済)



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」  
※大阪府は製造工業指数。H22=100。

季調済	26年1月	2月	3月
大阪府	101.4	P 105.4	
近畿	106.0	105.8	
全国	103.9	101.5	P 101.8

**産業別の主な変動**  
(大阪府、前月比(%)、寄与度順、2月速報)

上昇	電子部品・デバイス(18.6):液晶素子 化学(5.0):合成アセトン、フェノール プラスチック製品(10.4):プラスチック製容器(中空成形)、プラスチック製フィルム・シート
低下	金属製品(▲14.3):橋りょう、飲料用アルミニウム缶 電気製品(▲6.8):開閉制御装置、アーク溶接機 石油・石炭製品(▲11.3):ジェット燃料油、B・C重油

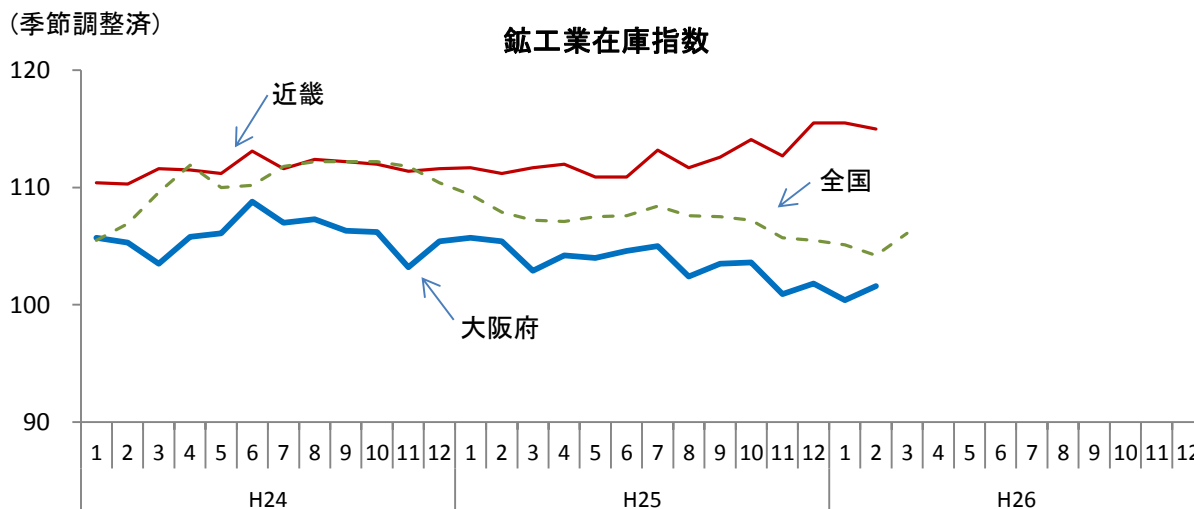
○鉱工業出荷指数【大阪府(2月)は2ヶ月連続の上昇。「非鉄金属」、「プラスチック製品」などが上昇。近畿(2月)は5ヶ月ぶりの低下。全国(3月)は2ヶ月連続の低下。】

季調済	26年1月	2月	3月
大阪府	96.8	P 97.4	
近畿	107.2	107.0	
全国	104.4	103.4	P 102.2

(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」  
※大阪府は製造工業指数。H22=100。

## [供給] 生産

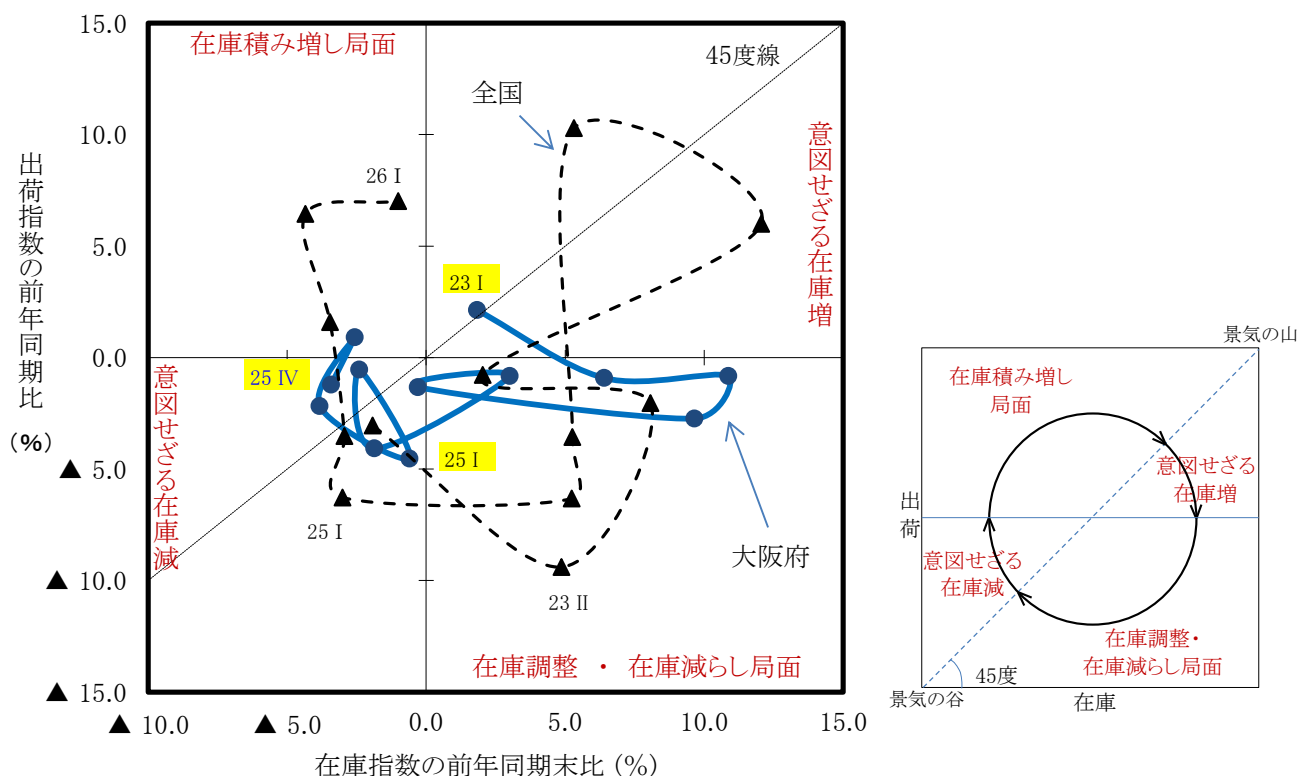
○**鉱工業在庫指数【大阪府(2月)は2ヶ月ぶりの上昇。「化学」、「輸送機械」などが上昇。近畿(2月)は3ヶ月ぶりの低下。全国(3月)は8ヶ月ぶりの上昇。】**



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」  
※大阪府は製造工業指数。H22=100。

季調済	26年1月	2月	3月
大阪府	100.4	P 101.6	
近畿	115.5	115.0	
全国	105.1	104.2	P 106.1

○**在庫循環図【大阪府は意図せざる在庫減局面。全国は在庫積み増し局面。】**



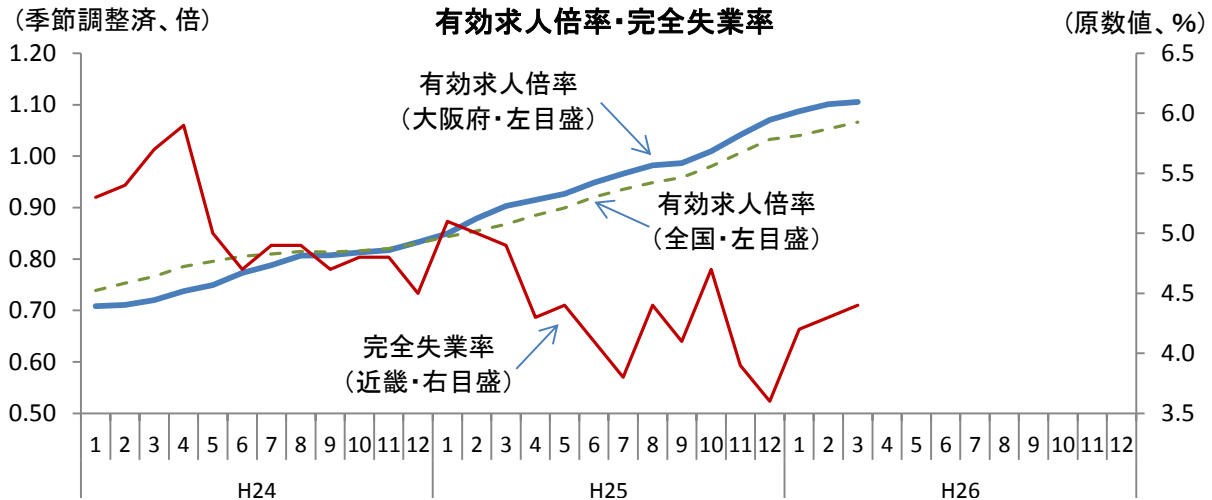
(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、経済産業省「鉱工業指数」、内閣府「鉱工業の在庫循環図と概念図」  
※出荷指数は原数値の四半期平均、在庫指数は原数値の四半期期末月の数値。  
大阪府は製造工業指数。四半期は暦年ベース。

## [供給] 雇用・倒産

雇用は着実に改善している。所定外労働時間は増加し、近畿の失業率は改善。有効求人倍率、新規求人倍率ともに上昇。倒産では、件数、負債金額ともに改善。

○完全失業率【近畿は前年同月差で18ヶ月連続の低下(改善)。】

有効求人倍率【大阪は17ヶ月連続の上昇】、新規求人倍率【大阪は2ヶ月連続の上昇】



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」、総務省統計局「労働力調査」 ※有効求人倍率はパートを含む。

完全失業率(近畿、原数値)

	26年1月	2月	3月
%	4.2	4.3	4.4
前年同月差	▲0.9	▲0.7	▲0.5

完全失業率(全国、季節調整値)

	26年1月	2月	3月
%	3.7	3.6	3.6
前月差	0.0	▲0.1	0.0

大阪府、近畿及び全国の完全失業率(原数値、%)

	25年4~6月	7~9月	10~12月
大阪府	5.2	4.4	4.2
近畿	4.3	4.1	4.1
全国	4.2	4.0	3.7

(資料)大阪府統計課「大阪の就業状況」、総務省統計局「労働力調査」

有効求人倍率(季節調整値、倍)

	26年1月	2月	3月
大阪府	1.09	1.10	1.11
全国	1.04	1.05	1.07

(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」 ※パートを含む。

新規求人倍率(季節調整値、倍)

	26年1月	2月	3月
大阪府	1.75	1.82	1.85
全国	1.63	1.67	1.66

若年者の有効求人倍率(大阪府、倍、3月)

24歳以下	1.18
25~34歳	1.18

(資料)大阪労働局「労働市場月報」

※就職機会積み上げ方式、パートを含む

新規求人数の主要産業別の増減

(大阪府、前年同月比(%), 3月)

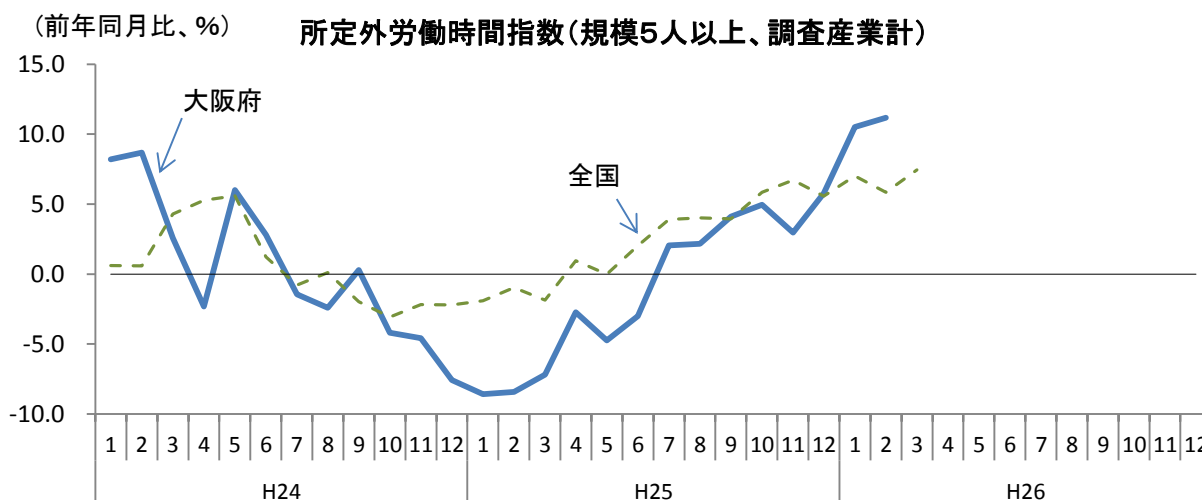
建設業	16.6
製造業	19.3
卸売業、小売業	▲3.4
宿泊業、飲食サービス業	▲29.2
医療、福祉	3.8

(資料)大阪労働局「求人・求職状況速報」

※新規求人数の増減は原数値での比較

## [供給] 雇用・倒産

### ○所定外労働時間指数【大阪府(2月)は8ヶ月連続の増加。】



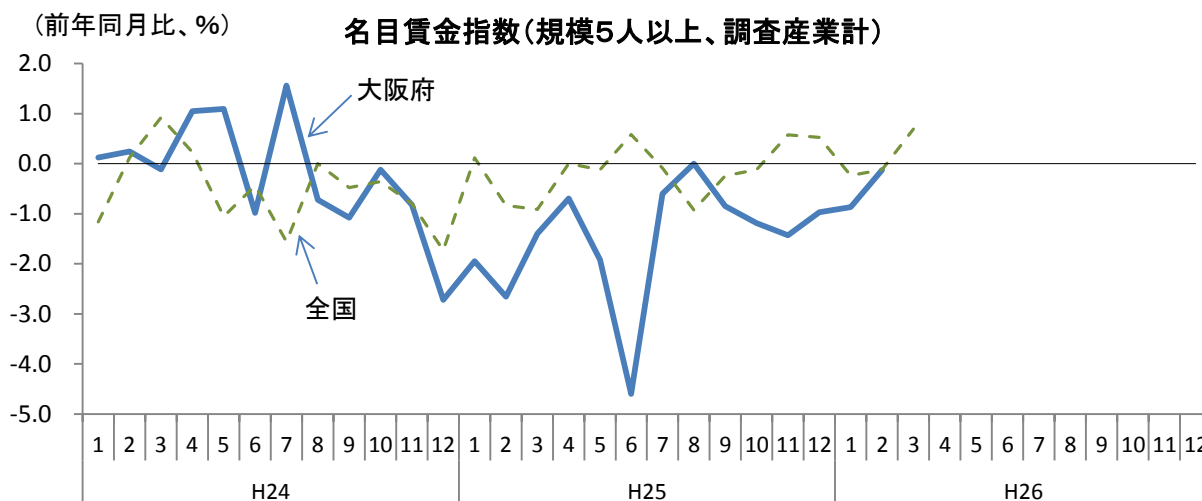
(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」  
 ※事業所規模5人以上、前年同月比は労働時間指数(H22=100)による。

		26年1月	2月	3月
H22=100	大阪府	109.4	113.5	
前年比 (%)	大阪府	10.5	11.2	
	全国	7.0	5.8	P 7.4

#### 産業別所定外労働時間の主な増減 (大阪府、前年同月比(%)、2月)

増加	生活関連サービス業、娯楽業(45.0) 情報通信業(26.0) 運輸業、郵便業(25.1)
減少	教育・学習支援業(▲38.8) 学術研究、専門・技術サービス業(▲19.1)

### ○名目賃金指数【大阪府(2月)は6ヶ月連続の減少。】



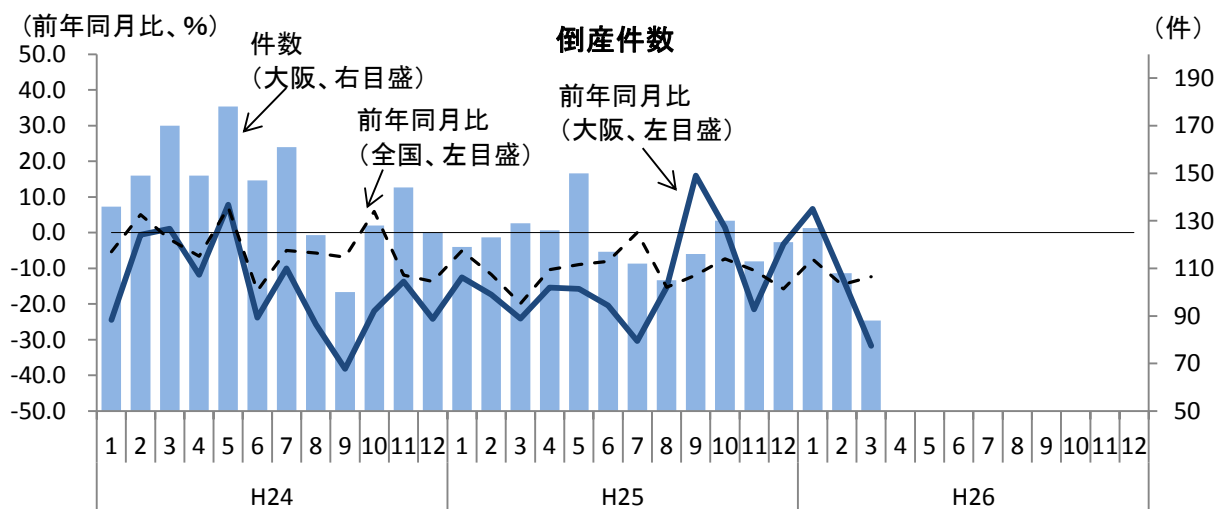
(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」  
 ※前年同月比は名目賃金指数(H22=100)による。

		26年1月	2月	3月
現金給与総額(円)	大阪府	271,102	273,702	
前年比 (%)	大阪府	▲0.9	▲0.1	
	全国	▲0.2	▲0.1	P 0.7

※前年比は名目賃金指数(H22=100)による。

## [供給] 雇用・倒産

○倒産【倒産件数は2ヶ月連続の減少(改善)、負債金額は2ヶ月ぶりの減少(改善)】



(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

倒産件数

		26年1月	2月	3月
件	大阪府	127	108	88
前年比 (%)	大阪府	6.7	▲12.1	▲31.7
	全国	▲7.4	▲14.6	▲12.3

負債金額

		26年1月	2月	3月
億円	大阪府	133	105	103
前年比 (%)	大阪府	▲8.9	36.3	▲17.6
	全国	40.2	▲32.4	▲26.4

主要業種の倒産件数(大阪府)

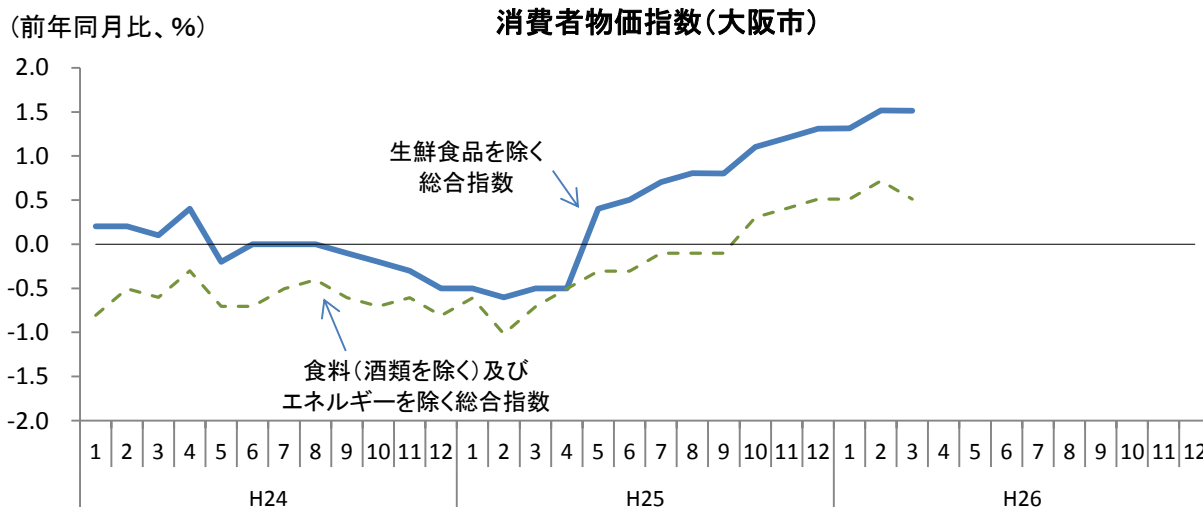
	26年1月	2月	3月
建設業	26	14	21
製造業	16	14	14
卸売業	24	14	16
小売業	15	11	4
サービス業	35	34	24

主な倒産(大阪府、3月)

業種	負債額 (百万円)	倒産原因
ボーリング場経営ほか	4,815	放漫経営
廃液リサイクル処理	600	販売不振
とび・土工工事	490	販売不振

## [その他] 物価

○消費者物価指数【大阪市の生鮮食品を除く総合指数は11ヶ月連続で上昇。「光熱・水道」、「食料」が上昇に寄与。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は6ヶ月連続で上昇。】



(資料)大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」、総務省「消費者物価指数」 ※H22=100

生鮮食品を除く総合指数(H22=100)

		26年1月	2月	3月
指数	大阪市	100.2	100.3	P 100.6
前年比 (%)	大阪市	1.4	1.4	P 1.5
	全国	1.3	1.3	1.3

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合指数(H22=100)

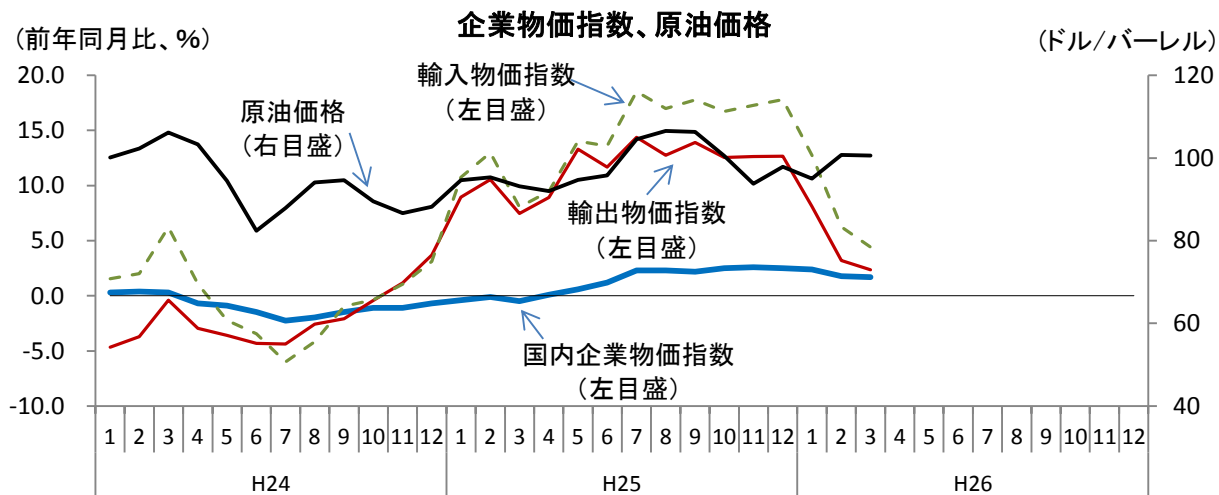
		26年1月	2月	3月
指数	大阪市	98.2	98.2	P 98.5
前年比 (%)	大阪市	0.5	0.7	P 0.5
	全国	0.7	0.8	0.7

総合指数において主に変動した分類  
(大阪市、前年同月比(%))、寄与度順、3月速報)

上昇	光熱・水道(10.8):電気代、ガス代(都市ガス代、プロパンガス) 食料(2.2):魚介類(さけ、いか、ほたて貝)、乳卵類(チーズ、鶏卵、牛乳(店頭売り)) 諸雑費(3.1):他の諸雑費(傷害保険料、振込手数料、保育所保育料)、身の回り用品(ハンドバッグ(輸入品)、指輪、腕時計)
低下	—

## [その他] 物価

○企業物価指数【国内企業物価指数、輸出物価指数、輸入物価指数はすべて上昇。原油価格は低下。】



(資料) 日本銀行「企業物価指数」、IMF「Primary Commodity Prices」

※輸出・輸入物価指数は円ベース。物価指数は H22=100。

企業物価指数 (前年同月比 (%))

	26年1月	2月	3月
国内企業物価指数	2.4	1.8	P 1.7
輸出物価指数	8.1	3.2	P 2.3
輸入物価指数	12.7	6.2	P 4.4

原油価格 (WTI)

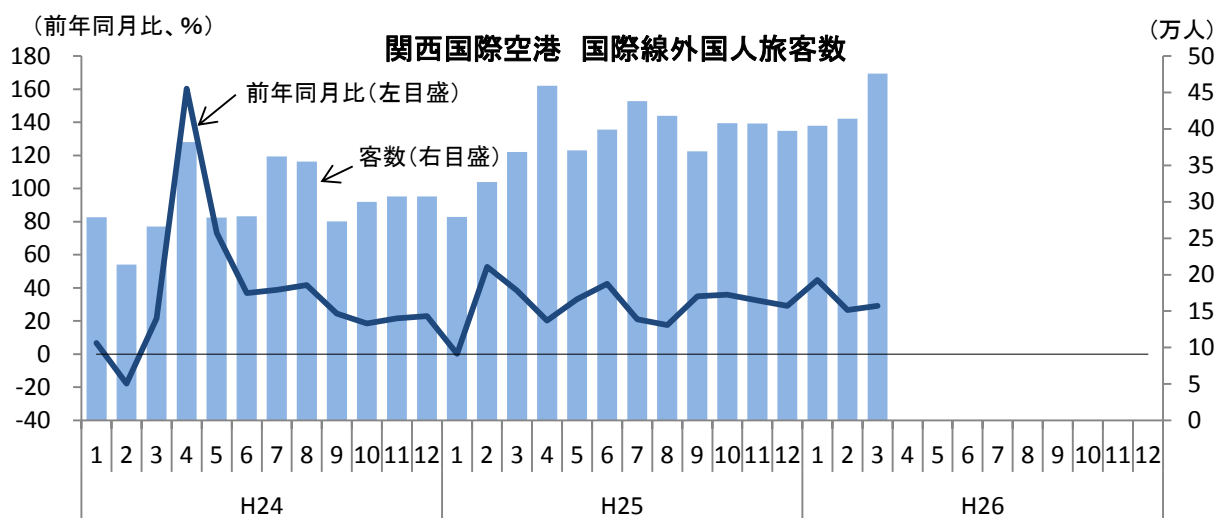
	26年1月	2月	3月
ドル/バーレル	95.00	100.70	100.57

国内企業物価指数の前月比変化に寄与した  
主な類別・品目 (3月速報、寄与度 (%))

電力・都市ガス・水道 (0.06) : 産業用特別高圧電力、産業用高圧電力、業務用高圧電力
石油・石炭製品 (0.04) : ガソリン、A重油、灯油
スクラップ類 (▲0.06) : 鉄くず
非鉄金属 (▲0.05) : 銅地金、銅裸線、銅荒引線

## [その他] 観光

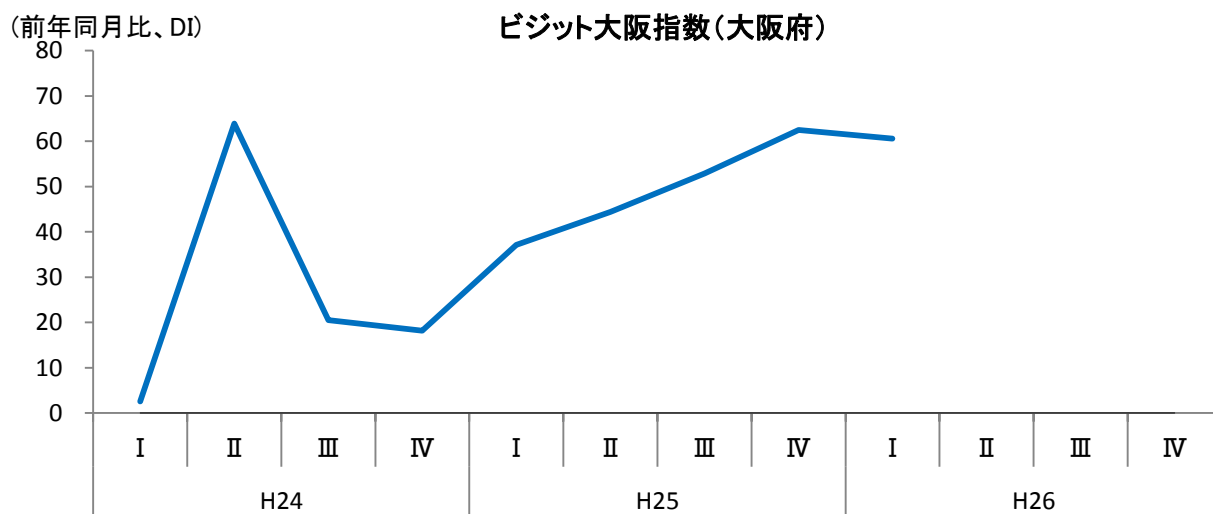
### ○関西国際空港 国際線外国人旅客数【25ヶ月連続で増加】



(資料) 新関西国際空港(株)「運営概況」

	26年1月	2月	3月
万人	40.5	P 41.4	P 47.6
前年比 (%)	44.8	P 26.6	P 29.2

### ○ビジット大阪指数(DI)【前年同期比で、1～3月期はやや下降。】



(資料) 大阪府都市魅力・観光課「大阪府観光統計調査」

※四半期は暦年ベース。DI:「好調」の割合(%)－「不調」の割合(%)。

	25年 7～9月	10～12月	26年 1～3月
業況判断 DI (前年同期比)	52.9	62.5	60.6